

権田金属

不燃マグネ、建材に採用

天井材、振動対策に有効

伸銅品とマグネシウム板材を製造する権田金属工業（本社＝相模原市、権田源太郎社長）は10日、同社の不燃性マグネ合金が、世界で初めて建材に採用されたと発表した。マグネ

合金は、「AZX612」を使用したエキスパンションジョイント。東京都内の2つの学校で天井材に使われた。地震など振動対策になるため、今後は多くの吊り天井に使われ

る見込み。同社のマグネ合金を素材としたエキスパンションジョイントは1月に、東京江東区にある豊洲北小学校の小体育館の増築工事や、町田市にある鶴川中学校

の格技室の補修工事に使用された。エキスパンションジョイントは、構造物のつなぎ目を使用する建材。アルミ建材よりも強度が高く、軽量なため、振動に強い。素材

となるマグネ合金は、加工性や耐食性、強度に優れたAZ61をベースとしたAZX612（アルミ4%、亜鉛1%、カルシウム2%）。また、表面に塗る塗料や、曲げ加工のノウハウを取得して、抑え金具やばねの開発を進めた。2013年11月には、建材として国土交通省の不燃認定を受けている。

今回の実用化については、素材の不燃認定だけでなく強度を確認する必要がある。14年11月には、つり天井の国内大手メーカーである桐井製作所の研究所で、強度確保を確認する圧縮試験や変位追従試験を受けた。不燃性マグネ合金は、天井用途以外の建築材にも広く使われることが期待されている。同社は3年前から、エキスパンションジョイントの開発を進めるなど、マグネに力を入れてきた。